12

ユニバーサルデザインの研究

高齢者と足が不自由な方のための靴べら

Research of universal design

The shoehorn for a direction with trouble in elderly people and a leg

デザイン学科・講師
Department of Design • Lecturer
金 昌郁 *Chang-wook KIM*

高齢者と足が不自由な方のための「靴べら」の開発

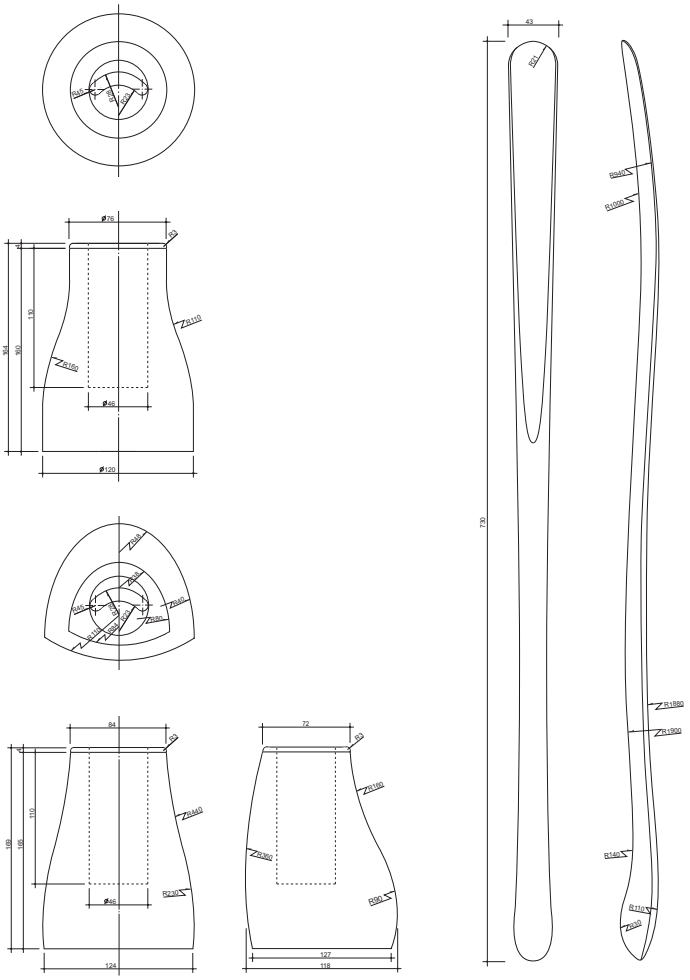
ロングサイズ「靴べら」の試作

急速な高齢社会の進展に伴い、高齢者に対応するための玄関用具の開発を行った。

日本の旧家に見られる玄関の三和土から居住空間への上がり框の高さは、身体機能の低下した高齢者にとって靴の履き替え時、上がり框に腰かけることで靴等の着脱を容易にしてきた。しかし居住空間への移行は段差があり足腰が弱くなった高齢者にとっては、玄関口での段差は身体に大きな負担をかけている。

このため最近の日本の住宅の玄関は、高齢者や身体機能が弱くなった方への配慮もあり、居住空間を結ぶ玄関口の廊下からの出入りを容易にするため上がり框は段差がない住宅が多くなっている

このため、居住空間への出入りはスムーズになったが、靴等の履き替え動作は、立ったままで行わなければならず、足腰が弱くなった高齢者にとっては、腰掛付の玄関家具や椅子がないと安定して着脱が出来ないということも出てきた。靴の着脱を容易にするためにこれまで「靴べら」が使われてきたが、これまでのものはポケットに入れて持ち運びできるハンディタイプのものか柄の部分が少し長いもの（30cm～50cm）が多かった。今回、開発試作した「靴べら」は、足腰が弱くなった高齢者でも立ったまま履物着脱できるよう、これまでにないロングサイズにした。高齢者白書等の資料によれば玄関口での靴の着脱時での転倒も多く見られ、今回試作した「靴べら」はこうしたことを少しでもなくしたいという思いもあった。これに合わせて使いやすくとりだしやすいように自立して置ける「靴べら」スタンドも開発した。今後は、高齢者の心理や身体特性、生活習慣等を十分に把握するとともに高齢者に被験者となっていただき身長と「靴べら」の関係を調査していきたいと思っている。



[fig.01] くつべら 710×45×35、台 120×120×170

[fig.02] くつべら 710×45×35（ケヤキ、ウエンジ、ブビンガ）